

※文字の大きさは Meiryō UI /12ポイント以上とし、行間・文字間、上下左右の余白は変更しないでください。
 ※具体的に示したい図、写真、表、グラフなどは、(写真1) (表1) などと文中に記載し、右ページに(写真1) (表1) などと表記の上、貼り付けてください。
 ※文章と図等を組み合わせた作成も可能です。各項目の枠の上下幅は変更可能です。
 ※いずれの場合も、必ずA3片面1枚におさまるように作成してください。ファイルサイズは5MB以下としてください。

※事務局記入欄

【様式2】

No. B-43

部門名：働き方改革実践部門
 エントリー名：いわき市立小白井小・中学校

活動名：
 主タイトル(12文字以内) チーム小白井多忙化解消
 副タイトル(16文字以内) カエルレンジャーボードの活用

解決すべき課題：※活動を行う前に、課題や目標をどのように設定しましたか？視点などを含めて記載してください。

本校は山間地区に位置する小規模校で、小中学生が1階(小学生)と2階(中学生)に分かれ、同じ校舎の中で生活している。規模の関係から、小学校は管理職を除くと1名のみの職員でほとんどの校務分掌を担っている。事務職員の配置がないため、事務の仕事は小中学校の教頭が行っており、年度始めと年度末の人事異動の時期には多忙を極める。また、小学校と中学校の文化の違いを念頭とした暗黙の壁があり、小学校職員が中学校職員に協力を依頼する場面が少なく、孤軍奮闘のような状況も昨年度は多く見られた。

目標・方針：※課題を解決するためにどんなストーリーやシナリオを構想して、活動内容を組み立てたのか、記載してください。

- 5月上旬(教頭より校長へ提案)→5月末の職員会議でアクションプランの提示→6月よりボード運用開始
 <目標>
 ○ 時間外勤務を昨年度より10%以上削減
 ○ 小中学校職員が1つのチームとして協力
 ○ 職員の頑張りが認められる学校へ(「多忙化」とともに、孤立化による「多忙感」の解消)
 <方針>
 ○ 業務の分散化と効率化
 ○ 単純作業は助け合って多くの人数で
 ○ 機会をとらえた職員への称賛(所属感の向上)

活動内容：※目標・方針に基づいてどのような活動を行ったか、また、複数の活動を展開した場合はその位置づけや関連性を記載してください

- 職員室内のレイアウト変更(画像1)による作業スペースの確保と、プリンタやサーバーコンピュータの無線化による業務の効率化
- 校務分掌の見直し→小中学校で一緒にできる校務は中学校職員を主担当に
- カエルレンジャーボード(画像2)の活用
 - ・ 家族や自分の時間を大切に「定時退勤日予告」(画像2①)
 - ・ 退勤目標時刻の見える化(画像2②)
 - ・ 単純作業を職員で協力して行うシステムの構築(画像2③)
- 職員室だより「チームワーク」の発行(画像3)
 - ・ 職員の頑張りを取り上げ、意欲の向上に

活動の成果：※課題設定に対して、どんな影響、変化あったか、参加者の声など客観的な情報・データとともに記入して下さい。

- 前期(4月~10月)の時間外勤務 → 3割近く削減(表1)
- カエルレンジャーボード → 「ボードの活用で働き方改革が意識化された」(1学期末の職員反省より)
- 業務分散が意識化されたことで、中学校職員から「この業務は中学校で分担してやりましょう」という声が自然にあがるようになった。(「チーム小白井」の体現)

アピールポイント(アイデアや工夫)：※3~5つ程度、箇条書きしてください。

- 単純作業は、みんなで一緒にやることでコミュニケーションの場となり孤立感の減少につながる。
- 教頭自ら「定時退勤日予告」や「単純作業募集」を行うことで、職員もそういった情報を発信しやすい雰囲気になることにつながっている。
- 職員室だよりは配布されるごとに先生方もよく目を通しており、職員の所属感の向上だけでなく、職員同士のコミュニケーションの話題提供にもつながっている。

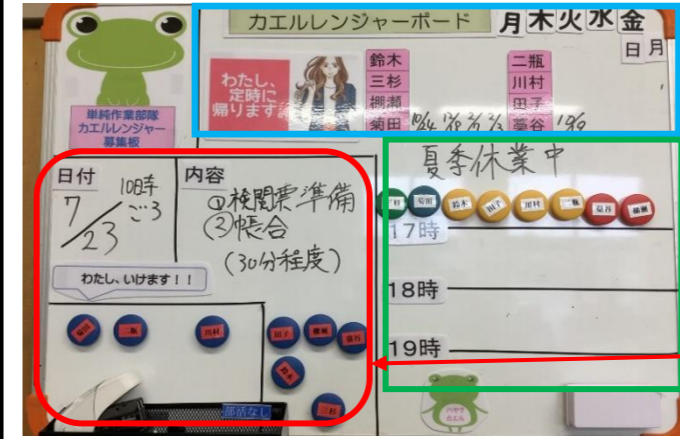
画像1 (ワイヤレス機器や机上台を整備し、作業スペースを確保)



←以前の共用PCデスク 現在→
 小規模校で職員は少ないが、小中学校の職員が1つの職員室で業務を行うため職員室内は窮屈。以前は物を置く場所や作業スペースに困っていたが、PC本体は机の下に置き、机上の作業スペースを確保。ワイヤレスマウス、キーボード、机上台、液晶モニターを活用。



画像2 (カエルレンジャーボード：岡山県教育委員会の取組を参考に)



- ① 定時退勤日の予告
→ 自分の時間や家庭を大切に
- ② 退勤予定時刻の見える化
→ 他の職員の退勤予定時刻を知ることにより、自分自身も早く帰ることへの意識
※ 写真は夏期休業中のため、全職員のマグネットが定時退勤になっている
- ③ 単純作業部隊カエルレンジャーの募集
→ 人数が多ければ早く終わるような仕事は抱え込まず、手伝ってくれる職員を募る



画像3 (職員室だより)



「お客様の前で寿司を握るのは、100ある仕事の最後の1つに過ぎません。それまでに99の手間があるのです」
 とあるテレビ番組での寿司職人へのインタビュー。お客様に寿司を出すためには、早朝の目利きや仕入れから始まり、手間暇かけた下準備…。あくまで、お客様の前で握るのは最後のひと手間なんです、というお話でした。
 先日行われた運動会では、練習から準備、当日の運営まで、子どもたちの笑顔の陰には、先生方の数々の下準備があってこそ、ではなかったかと思えます。
 担当の藤瀬先生におかれましては、おそろしく99を超えるような下準備をされ、最後のひと手間まで手を抜かず当日を迎えられたのではないのでしょうか。
 また、それをサポートする先生方も、子どもたちに模範を示したり、必要な場面を捉えて的確な声をかけてくださったり、環境作りに努めてくださったり…それぞれに力を発揮していただいた成功であったと思います。これまでのご尽力に深く感謝しています。今後も「チーム小白井」、一丸となって頑張っていきたいと思います。

